

・プロフィール

名前・・・小川さゆり（仮名）

統一教会の二世信者として育てられ、現在は脱会し一般人と結婚

家族・・・両親は20歳前後の頃統一教会に入信、合同結婚式で結婚。現在も熱心な信者。

父は元教会長。母は政治面でも教会から出馬した議員の選挙活動を手伝ったり、ウグイス嬢をしたりしていた。

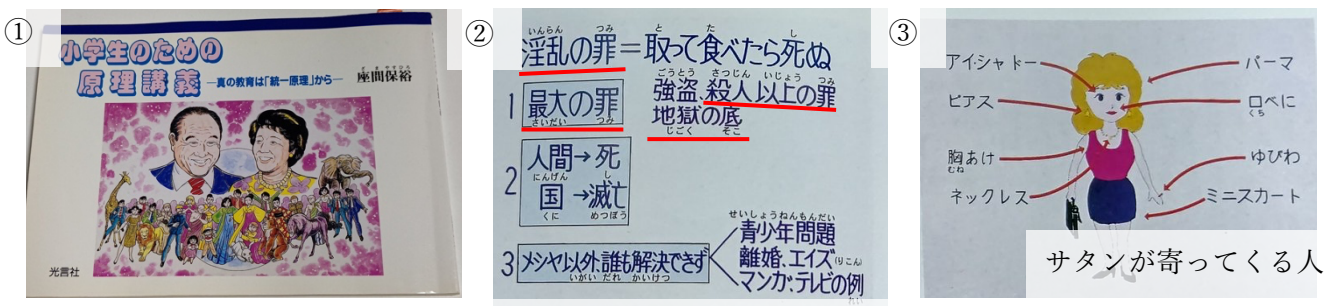
■ 自分が経験してきた宗教による被害

(1) 生活の困窮

幼少期から学生時代にかけて、お年玉も没収、散髪も行かせてもらえない、誕生日やクリスマスのプレゼントは貰えず、服もお下がりで、見た目の貧さからいじめに遭った。親が親戚中を勧誘したり、お金を要求したり、そのことで怒られているところを見させられた。バイト代等の200万円ほどの給与も献金に費やすため全て両親に没収される。精神病棟に入院した際、隠して貯めていた貯金を母親に無断で全額引き落とされる。

(2) 信仰の強制

礼拝、行事の参加、宗教行為の強制（祈り、訓読）、恋愛禁止（画像②）、統一教会の思想に反する情報の制限（テレビ、本、音楽）、それらを守らなかった場合地獄に落ちるなどと脅す教育（画像②～⑥）



小学校の頃、①この本を使って礼拝で②「恋愛は殺人以上の罪」「地獄の底に行く」と教育されていた



異性を考えることや、自慰行為も許されない 画像②～⑥サタンや地獄、天国を使って脅す

中学の頃、教会行事への参加で部活を休みがちになり、上級生から目をつけられ練習させてもらえず、小学校の頃よりもエスカレートしたいじめを受けた。

■ 脱会に至った経緯

・教義と現実とのギャップ

高校時代、介護が必要になった祖母に対し、家族が暴言・暴力を振るうようになる。

千葉で行われる結婚前に参加しなければならない21日修練会に参加するが、公職者からセクハラを受ける。

韓国にある清平(チョンピョン)修練院という除霊施設の修練会に参加するが、精神崩壊した信者たちを数多く目の当たりにする。

教義の矛盾や家族崩壊からのストレスで精神の安定を保つことが難しくなり、精神疾患を追い、精神病棟に入院する。その際、隠して貯めていた貯金を母親に無断で全額引き落とされる。

退院し、帰国後も鬱病とパニック障害を繰り返し、引きこもるようになる。

母が自分のことを「家にお金も入れないでいつになったら働いてくれるのか。」と厄介者扱いしていることを知り、限界を感じ、家を出たのち脱会する。

■ 被害事例の収集と紹介

◇被害の調査を実施（2022 年 9 月 4 日開始）

- ・ 現役信者、元信者を対象に献金被害を中心にアンケートを実施
- ・ 約 60 件の被害報告
- ・ 一部抜粋（詳細別紙）

主な被害

生活費がなく貧困で困った
金銭の要求
教育費を使い込まれ進学に影響が出た
親の老後の不安
ネグレクト
信仰の押し付け
信仰的な脅迫

- ・ 事例紹介
アンケート

- P6 24歳 信仰を強制され、鬱で不登校。今禍根を残せば事件は再発する。
- P10 30歳 信仰を破ると罰を受けた。兄弟共に学費を使い込まれ弟の学費を肩代わりした。
- P11 17歳 親に信仰を強制されている。大学受験の資金に不安と焦りがある。
- P16 30代 養子に出された兄弟が20半ばでその事実を知り、自分たちを恨んでいる。
- P20 結婚後婦人部長の脅迫により300万円払わされた。妊娠中にも子供を材料に霊能者に脅迫されて献金した。
- 〃 30代 大学に行っていないのに奨学金を借りて生活費に使われた。妹二人の学費を稼いで肩代わりしたが、結局親は自己破産した。
- P24 28歳 親が韓国人男性と結婚させようとする。虐待はないが普通の家庭に生まれたかった。

■ 被害者を増やさないために超党派で対応していただきたいこと

(1) 高額献金・靈感商法の規制

献金や靈感商法により人生を狂わされ、苦しんでいる人たちが数多くいるため
高額献金を必ず規制して欲しい

(2) 統一教会を解散させて欲しい

カルト団体が宗教法人として認められているのはおかしい
宗教法人法での規制が機能していないのは問題
また、違法な契約や恐怖心を煽る教義、児童虐待などを理由に別の法律で団体そのものを規制・解散できるようにして欲しい

(3) 宗教的虐待からの子供の救済

行き過ぎた信仰により子供の人権が脅かされていることから、
虐待に遭っている子供を守る法律を作って欲しい
どのような理由であっても、子供の利益を最優先に考えて動ける組織を作って欲しい

具体的には、宗教に限らず、家庭で悩みを抱える子供がいつでも気軽に相談・避難・保護できるような施設を各自治体に作り定期的な社会科見学などを実践してほしい。
またそれを実現するための親権に関する法律も作って欲しい。
また、そういった児童の悩みが虐待に至る前に、早期発見できる仕組みとして学校の先生やアンケートなどを活用し、保護施設と連携できる仕組みが必要。

(4) 政治と宗教の関係について検討して欲しい

フランスの反セクト法では、セクト（カルト団体）を判別するための基準の一つとして、公権力への浸透の企てという項目がある。
統一教会の色々な活動に関わりのある政治家の権威が利用されてしまい、結果的に勧誘や被害を拡大させてしまっていた。

宗教団体の政治活動の規制は憲法上できないが、カルト団体は有力な政治家の権威を悪用しようとしてくる。

同じような被害を起こさないためにも、政治家側の行動基準について法律でルールを決めて欲しい。